令和７年度岩手県釜石保健所運営協議会　開催結果概要

１　日時

令和８年２月 17 日（火）午後６時 30 分から午後７時 20 分まで

２　場所

釜石市大町３丁目８番３号

釜石市青葉ビル　研修室１・２

３　出席者

(1) 委員

25 名中 21 名出席

(2) 事務局

岩手県釜石保健所職員等 12 名

４　傍聴者

なし

５　会長及び副会長選出

会長及び副会長について、自薦、他薦がなかったことから、事務局案として会長に小野共委員、副会長に小泉嘉明委員を提案し、承認された。

６　議事及び説明事項

(1) 令和７年度岩手県釜石保健所事業概要について

資料１により、企画管理課長から所掌事務等について、各課長から令和７年度の主な取組について説明を行った。

【質疑、意見等】

［かまいし環境ネットワーク　加藤委員］

自殺対策について、令和元年から令和５年まで数字が書いてあるが、管内は少し増えている。今年度の状況はどうなっているのか。

［保健課　佐藤技術主幹兼課長］

令和６年は、まだ市町村別の数値は公表されていないが、保健所が算定した圏域別の数値は出ている。県全体では若干増えて、報道によるとワースト１位になったが、管内の数値は若干下がっている。管内は総人口が少ないため、自殺者数が人口 10 万人に対する割合に与える影響が大きいが、この 10 年は 10 人前後で推移して

いる。

［かまいし環境ネットワーク　加藤委員］
青少年の割合はどうなっているのか。

［保健課　佐藤技術主幹兼課長］
子どもの自殺について、今年度も取り上げられているが、統計上、10 代の自殺は、令和２年及び令和４年に各１名となっており、以降は統計上の報告はない。

［かまいし環境ネットワーク　加藤委員］
傾聴ボランティアを養成しているとのことだが、ボランティアの利用者は増えているのか。

［保健課　佐藤技術主幹兼課長］
傾聴ボランティアの養成について、令和６年度に実施しているが、毎年度実施しているものではない。養成したボランティアのうち、自主的な活動をしているのは管内に２団体あると把握している。あくまでも自主的な活動であり、高齢者の集まりを開催したり、釜石市の協力を得て傾聴場所を開設するなどの中で活動している。
保健所では、活動支援ということで、そのような活動をしている団体の定例の集まりに参加し、自殺の取組に関する情報提供などを行い、側面支援している。

［かまいし環境ネットワーク　加藤委員］
全国もそうだが岩手県でも不登校の児童や生徒が増えている。きっと相談相手になってくれる人を求めているのではないかと思う。この傾聴ボランティアの方々が対応してくれるとありがたいと思って取り上げた。

⑵ 令和８年度の重点取組事項について
資料２により、技術主幹兼保健課長、環境衛生課課長及び福祉課長から令和８年度の重点取組事項について説明を行った。
【質疑、意見等】
［人と動物の絆ｍｏｍｏ太郎　鈴子委員］
人と動物のふれあい活動の中で、福祉部門との連携は本当に重要だと思う。私も活動している中で、多頭飼育の問題がある家庭に行ったとき、猫や動物ではなく、人の問題でしょうというようなことを言われた。多頭飼育の問題があったとき、最初の取組は猫の頭数の現状維持である。具体的に言うと猫の不妊手術が非常に大事になってきて、そこを進めておかないと人間のいろいろな問題を解決できないと考

えている。いままで動物のことは後回しになっていたけれど、動物を飼育している人のことをきちんと見てほしいということで、皆さんの動物とその家族の問題に関する認識を改めてもらいたいと思う。最近は多頭飼育の問題など、たくさん報道されているので、皆さんの認識も変わってきているとは思うが、改めて、意識改革をお願いしたい。

もうひとつは災害について、昨年、大船渡市林野火災で、避難指示が急に出たために、家にペットを残したまま避難したという事例がたくさんあった。大船渡市の例では、避難した後に戻ることができなかったけれども、ペット同行避難は、ペットの命を助けるものではなくて、ペットを飼っている家族の命を助けることになるものである。災害時は、ペットより人の命が優先という風潮があるが、そういう認識も変えていってもらいたいと思い、話をさせてもらった。

［環境衛生課　髙橋課長］

福祉の連携について、いままで動物のことが後回しになる状況があったと思うが、徐々にではあるけれども状況は改善しており、引き続き連携を進めていきたいと思う。連携の具体例として、猫で困っている飼い主がいたら、まず保健所に情報を伝えてもらいたいと思う。そこから連携が始まるので、協力をお願いしたい。

同行避難については、各市町村において計画等が策定されているかと思う。ノウハウがない部分には保健所から助言できることもあると思うので、活用してもらいたい。

［釜石市公衆衛生組合連合会　古川委員］

３点ほど聞きたい。ひとつは、被災地の健康づくりと心のケアについて、公民館の活動で百歳体操や運動など様々なことに取り組んでいるが、公民館に１人で行けない、あるいは、車がないと移動できない人もいる。そのような人たちを含め、地域で見守り支え合う人材の育成と取組の支援とあるが、例えばそのような人たちに対し、具体的にどういうことを考えているのか教えてもらいたい。

次に、人と動物のふれあい活動について、個人的に猫や犬は苦手なのだが、犬も家族の一員という家庭は多いと思う。公園や公共施設などで散歩をさせている飼い主が結構いて、犬もいい運動になると思うが、糞の処理が気になる。皆さんバッグを持ってはいるが、きちんと処理する人とそうでない人がいる。そういったルールについて犬の予防接種時に周知してもらうことが、共生にも繋がると思う。

最後に、ツキノワグマ対策の促進について、釜石市内ではツキノワグマに限らずシカの出没も多い。町内会でも草刈りを行っているが、会員の高齢化が進み、対応できる人が減ってきている。何かそういった部分に補助や支援などがあればと思う。

［保健課　佐藤技術主幹兼課長］

被災地の健康づくりと心のケアに関して、傾聴ボランティアの活動に対する具体的な支援については先ほどの説明と重複するが、心のサポーターについては、精神障害や心のケアを含めたメンタルヘルスに対する理解を深めるといった、地域の中で対応できる人を養成する形になっている。そのほか、ゲートキーパーの養成も行っていて、ゲートキーパーとして直接役割を与えるということはないが、例えば、家族や友人など、身近な人の悩みに気づいて、声をかけて、話を聞いて、必要な支援に繋げる心構え、聞くポイントなどの普及啓発に取り組んでいる。

［環境衛生課　髙橋課長］

公園における犬や猫の糞及び尿の処理について、原則として飼い主のマナーによるところになると思うので、適正な飼養について普及啓発を引き続き進めていきたいと思う。また、公共施設であり、その施設の管理者との連携も必要になってくる。公園であれば公園の管理者と連携して、マナーに関する看板の設置であるとか、例えば町内会へのリーフレットの配置なども協力できる部分があると思うので、連携して対応したいと考えている。困ったことがあれば相談してもらいたい。

クマについて、昨年は住民の不安が非常に高まったところであり、いろいろな場所で、ヤブの刈払いや放置果樹の伐採について対応してもらっている。特に土地の管理、あるいは放置果樹はその木の所有者や管理者の協力が必要不可欠になるため、協力してもらいたい。ヤブの刈払いに対する金銭面の補助は、農林部局と連携し、電気柵の設置やヤブの刈払いによる出没抑制対策がある。畑周辺が対象となる印象があるかと思うが、人の生活区域にも活用できるメニューになっている。相談窓口は農林部局になるが、生活環境を含めた刈払いに対応できると思う。その際、キーワードになるのが地域ぐるみということである。家の周りのヤブの刈払いができない高齢者もいると思うので、地区全体、あるいは地区の中で難しければ隣の地区との連携し地域ぐるみで進めることで、環境整備に協力してもらいたい。

［(一社)岩手県獣医師会遠野支会　前川委員］

ツキノワグマ対策の促進について、施策の中にクマを減らすという対策がない。学者もそこには触れない。猟友会が猟期に取ればよいだろうということになっているが、状況は変わっていて、猟期に取れないため個体数が減らない。増える一方である。私が憤りを感じているのは、農家は自然環境を含めて農業に必要なことだから現状維持するためにヤブの刈払いなどを行っている。高齢化が進み厳しい中では、シカを含めそもそもクマが来ないように個体数を減らすといった対策が求められている。示されている対策では、どうも農家が悪者扱いされているような感じがする。柿を収穫しないなら伐採しなさいなどというのは乱暴な話で、農家にとって柿

の木は財産である。行政やボランティアがどうこうするという話ではないと思う。

［環境衛生課　髙橋課長］

昔、米が取れない時代には、庭の柿が、米が収穫できないときに主食になって、農家の命を助けたという話も聞いたことがある。柿の木を全部切るといった乱暴な話をするものではない。しかしながら、状況が状況であるため、クマが増えている中でどちらを優先するかといえば人命を優先ということになる。県におけるクマの個体数管理施策について、現状でも減少させる方向で施策を進めている。北奥羽と北上高地の合算で個体数推計 3,700 頭に対して、現在の計画で 3,400 頭まで減らす施策を進めているところであり、国においても頭数保護から管理に切り替えると報じられている。来年度以降、本庁において新しい管理計画の策定を検討していると思うので、その状況を注視していきたい。現状としては、クマが出てこないような対策、出てきたとしても居座らないような対策を行って、まずは人命を保護したいと考えている。

また、シカについても引き続き捕獲を推進している。なかなか減らない状況ではあるが、ハンターの高齢化といった課題もある中で、新しいハンターの育成も進めている。

［釜石市　小野委員］

クマの話は、この時期は冬眠していることもあり、秋頃に１日に４回も５回も出没していたような状況ではないけれども、この冬眠している間に、今後どのような対策を打ち出せるのかといったことが、暖かい時期になってから影響してくると思う。何もしなければ同じ状況になるので、とにかく絶対数を少なくしないと、必ず市街地に出てくる。市街地に出てきたときに緊急銃猟を行うにしても、実施できる条件が限られている。昨年 11 月に釜石市内で緊急銃猟を行った際もかなり厳しい条件だったので、もっと市街地に出てくるようになると対応できない。吹き矢で対処するという話もあるが難しいと思う。やはり山にいるクマの絶対数を少なくする必要がある。まず山にいる個体数を調べて、その何年か前と比べて増えたから、その分を減らすといった段階ではない。市街地で無差別殺人が起きているのと同じような印象をもっており、かなり厳しい状況と感じている。そういった緊張感をもって県の施策を進めてもらいたい。

［かまいし環境ネットワーク　加藤委員］

働く世代等の生活習慣の改善と企業の健康経営の取組を促進する中で、学校や市町村と連携した体験型健康講座等による若年層への取組拡大とあるが、具体的にどのようなことを行うのか。

［保健課　佐藤技術主幹兼課長］

生活習慣病の予防として、脳卒中対策も含め、子どもの頃からの食生活習慣、運動習慣について、望ましい習慣を確立することが重要と考えている。いま運動習慣の動機づけとして、体組成計などの健康管理機器を学校等へ貸し出すといった事業を行っているが、更に踏み込んで、体験型の健康講座などに出向いて取り組めないかと模索しており、このあたりの取組を拡大していきたいと考えている。

［かまいし環境ネットワーク　加藤委員］

なぜ私が先ほど来、青少年や子どもに対する取組に固執するかというと、県では毎年、生活習慣アンケートを学校の子どもたちに対して実施しており、いわてっこの姿として調査結果が公表されているが、朝食欠食、毎日の睡眠及び肥満が問題になっている。新聞報道にもあるとおり、スマートフォンやタブレットの利用やゲームをすることにより、全国的に子どもの視力が低下している。朝食欠食、毎日の睡眠及び肥満は生活習慣病に繋がる要件であり、スマートフォンやタブレットに興じていれば体を動かさなくなる。体を動かさないことは脳に大きな影響を与えることになる。子どもが体を動かさないという大きな問題がクローズアップされていると思う。スウェーデンの精神科医であるアンデシュ・ハンセンが書いたスマホ脳という本によると、子どもの頃に体を動かさないと青少年や大人になったときに心の病気が増えるということである。昨年、心の病気を抱える県職員が増えていて、カウンセラーを増やすといった報道もあった。大人になってから心の病気になりやすくなるということがわかっているので、ぜひ、青少年に対する生活習慣病の事前教育について頑張って取り組んでもらいたいと思う。

［保健課　佐藤技術主幹兼課長］

いまの意見も踏まえて取り組んでいきたいと思う。

⑶　その他

［かまいし環境ネットワーク　加藤委員］

いつかの会議で、子どもたちがすごく暑い中、ランドセルを背負い水泳道具やいろいろな道具を両手に持って、暑さ指数がぎりぎりのところで登下校している状況を何とかしてもらいたいと提案した。その対策はどのようになっているか。県ホームページを見たが、本運営協議会の議事録が掲載されておらず確認できなかった。他地区の保健所運営協議会では過去の発言内容がわかるように掲載されている。

［企画管理課　佐藤課長］

本運営協議会の会議結果は、当該年度に県ホームページに掲載したが、掲載期間が終了したことから、現在は表示されていない。改めて県ホームページへの掲載手続きを行うこととする。

子どもたちの登下校の暑さ対策は、所掌業務の範囲外と考えられることから、回答は控えさせていただく。

［釜石市　小野委員］

私が把握している話をすると、市において、市教育委員会と話し合っている。市教育委員会では、学校の教育課程や時間割などの問題から、暑さ指数が高い日は持参する教科書を減らすといった対応を取ることは難しいとのことである。今後、教科書のデジタル化が進むにつれて、一定程度解消される可能性はある。私も子を持つ親だが、現実問題として、学校に教科書を置いて、家庭で勉強しなくてもよいのかという議論もあり、市教育委員会においても課題として認識しているということである。

［かまいし環境ネットワーク　加藤委員］

今年の夏もますます暑くなることが予想される。この対策が遅々として進まないことで、子どもが登下校中に倒れたという事態が起きてからでは遅い。例えば、クーリングシェルターを増設するとか、何か対策を考えてもらいたい。

［釜石市　小野委員］

クーリングシェルターは市内で徐々に増えている。釜石駅やイオンタウン釜石やコンビニエンスストアなどがクーリングシェルターになっていて、登下校のときにすぐに入ることができる場所を増やしていくことで、子どもたちの健康を守っていきたいと考えている。

６　その他

なし